

スカウト週間

「スカウトの奉仕の日」奉仕を通じてボーイスカウトの「ちかい」と「おきて」を实践しよう。

スローガン 「より良き社会をめざして」

テーマ 「美しい日本を作ろう」

期 間 昭和54年4月30日(月)～5月6日(日)



- (1) 自然を大切にしよう
- (2) 地域社会に奉仕しよう
- (3) 公衆道徳を守ろう
- (4) 社会福祉に目を向け、社会福祉関係の人々や施設に協力しよう
- (5) 身体の不自由な人に対する思いやりをもとう
- (6) 老人に対してもっと親切にしよう
- (7) 日常生活に真のスカウティングを見いだそう



青少年の自殺とスカウト活動

浜松第18団団委員長 倉地 香



最近マスコミで、青少年の自殺の増加と、其の年令の低下現象を取り上げて居ります。

それは何を意味するか、色々と論議されて居りますが、理由の判然としないもの、衝動的なものの、其の総てが精神面の弱さで有ると決めつけることは出来ないが、大きなウェートを占めている事も否定出来ない。以前は、かゝる現象は極めて少いものであったと思います。何故増加して来たか、次代の荷い手で有る彼等の弱さは、単に精神面のみでなく、内体面に於ても、身長体重共に大巾な伸長を示したら、老人病と考へられて来た高血圧、糖尿病、腎臓病等々が小学生にも発現して居ります。此れでいいだろうか、考へさせられるでは有りませんか。

昔は飢寒乏と云う言葉が有りました。昭和の初期頃迄の一般的な日本人は、食に飢え、寒さに堪え、毎日毎日が生きる為の戦いで有り其の上に春夏秋冬と云う当時にとっては大変に不経済な荷物でしかなかった四季が有りました。其の四季に追い廻されて、考える事も脳む時間もなかった時代であったと思います。それが彼等を鍛え、それが現在の繁栄に結びつけたのです。

アメリカでも最上層とされているWASPの徹底した、シゴ

キ教育は有名です。

其の一例に、彼等は5才になると朝5時に起されて、牛馬の世話から農作業迄やらされて、荒馬に乗せられる。落馬して大怪我をすることも少くない。だが「あなたの子供が落馬して死んだらどうする」と聞いた時、その答は「そういうのは、俺の小供では無い」との一言で有ったと云います。又イギリスの貴族社会からなる特権階級の幼時期からの、エリート教育も有名です。異質では有りますが、其の中に生まれた強じんな肉体と精神力は、相通ずるものが有ると思います。

其の我々の先輩が鍛え抜かれた飢寒乏は、今や有りません。現在こそ、それよりも最つと次元の高いイギリスの特権階級の又はアメリカのWASPに於ける、エリート教育で体得した強い体、強い精神力の養成こそが、我々のスカウト活動の中に生かされるべきではないでしょうか。

スカウト活動の団体生活の中に、自然とそれを生かす技術が目的では無く、其の中に芽生えて来る健全な肉体と精神力こそ社会も期待し、父兄もスカウトも、それを求めて活動に努力をして居ると思います。リーダーもスカウトも父兄も共に此の限り無い大きな目標に向かって前進しようではありませんか。

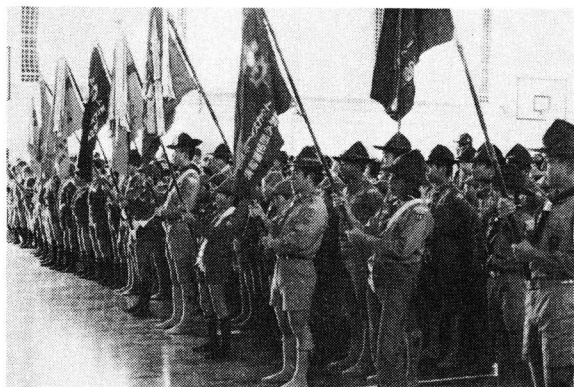
弥 栄

B — P 祭 南 部 ブ ロ ッ ク

可 美 第 1 団

2月18日、南部ブロックB-P祭は可美中学校に於て、700余名のスカウト、リーダー、父兄の参加者により盛大に開催された。式典は9時30分より体育館に於て、太田可美BS隊長の司会で開式、君が代と、世界の総長を、松本みや子デンマザーのピアノにより、斉唱。

山中団委員長が主催者挨拶として、次の様なB-Pについてのお話があった。「B-P祭おめでとう。南部ブロックのスカウト、リーダー、そして御父兄の700余名が、この可美中学校に集い、世界の総長ベーデン・ポール郷の御遺徳を讃えながら、明日のスカウティングへの限りない前進を、お互いがたしかめ合い励まし合うよい1日になるよう、希望します。



今日は2月18日です。ベーデン・ポール郷は、今から122年前の1857年の2月22日に、イギリスの首都ロンドンのハイドパークの近くに生まれました父はオックスフォード大学の教授であり、牧師さんでもありました。母は、イギリス海軍の名門のスミス家の出身で、ベーデン・ポール郷は12番目の子供として生まれたのです。名前は大変長くて、ロバート・スティフェン・スミス・ベーデン・ポールと云いました。大変厳しいしつけの家庭で育てられたロバートは、学校の成績も優秀で特に演劇には立派な才能があり、文章を書くことや、絵をかくこと、そして音楽に優れた才能を発揮しました。ロバート少年がいつも心掛けていたことは、チームワーク：協力の精神と、勇気と、忍耐で、常に弱い友達を助けて、学校の人気者であったと云われています。

成長してイギリス陸軍の軍人となり、80年前のボーア戦争で大活躍をしました。1907年、今から72年前に、ブラウンシーと云う島で、20人の少年達とキャンプを行ない、いろいろな実験をしました。このブラウンシー島のキャンプがいわばボーイスカウト運動の記念すべき第1歩であったわけです。

今日、ここに集ったカブスカウト、ボーイスカウトの若い諸君こそ、ベーデン・ポール郷の強く、正しく、明るい生き方を受けついで、互いに助け合いながらこのスカウト運動を力強く前進させて行きましょう。いろいろ行きとどかない点もあると思いますが、1日元気に楽しんで頂きたいと思います。おわり」1言1句熱心にきき入った。スカウト達の胸中には、会場

正面に鈴木副団委員長の描いたB-Pの肖像画と共に偉大な人を偲ぶ心を何時迄も何時迄も持ち続ける事と思います。



続いて新谷地区指導者養成委員長の挨拶と、福世小地区コミッショナーのお話があって、式典は終わった。10時より第2部のアトラクションに移り、浜松16団CS隊の鼓隊演奏で始まりグラウンドでは各団のCS隊の騎馬競走、ワッパマワシ競争、綱引きの順で元気一杯にグラウンド狭しとくりひろげられた。BS隊は、各班編成に別れ村内めぐり(ウォークラリー)競技が行なわれ、予定時間が経過しても、姿を見せない班があり、関係者が心配させられた一面もあり。不案内な土地でのウォークラリーが良い経験になったと思います。

第3部の模擬店コーナーでは、うどん、わた菓子、ジュースの三つのコーナーが設けられた。うどんコーナーでは、1時間内で700食と云う大量の献立をこなすのに大奮闘。かまどの煤煙で目をまっ赤にしなが、デンマザーがスカウト達に、おいしいうどんを食べさせようと、一生懸命でした。

わた菓子コーナーでは、素人ではむづかしいと云われる。機械の操作も、前日の特訓が実って、出来栄も上々、1作毎に腕を上げ終り頃には、玄人はだしの1人前の綿菓子屋気取り、スカウト達は、大喜び。デンマザーの頭も綿帽子をかぶった綿人形になって、大奮闘。ジュースコーナーでは、デンマザー諸氏も比較的落着いて、味はいかかとサービスに努めていた。

三つのコーナーも好評の中で全部売り切れて、店じまい午後1時。各スカウト達は良い天気に恵まれ、今日1日B-P祭の楽しかった事を喜びあい、三々五々、家路に急ぎました。



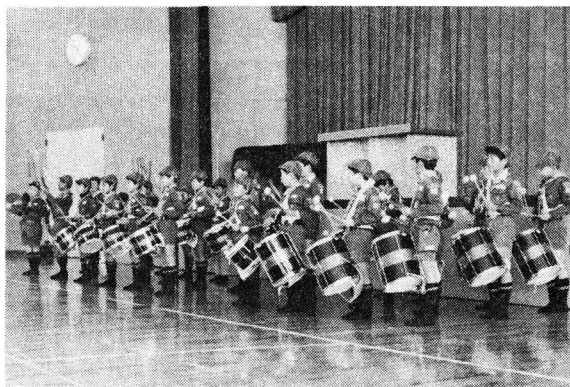
西部ブロックの

カブ隊B－P祭

浜松第12団・団委員 宮沢 広 士

年代の異なるカブとボーイとが同一の時間と場所で同一の事を行うことは大変無理なことが多いと云うことをB－P自身も指摘しているところであるが今まで多くの場合大人の都合に合わせて一緒に行われて来たことが多い。我々の住むこの地域も都市化が進むに従ってブロック単位の場合でさえ全員が集まる場所が少なくなったこともあって今年は原点に戻るよい機会であった。

二月十八日カブ七ヶ団全員が牛山公園に集結。晴天に恵まれてカブスカウトにふさわしい催しを行うことが出来た。紅白のまん幕が張られ、国旗開け、の号令と共に代表のカブスカウトがロープを引く。いつものボーイのお兄ちゃん達が行うのを見ていると云う受動的な感覚ではない。こんなことにもカブ自身の催しである意義を感じる。B－Pの肖像が高々と掲げられ各隊の隊旗がその前に集合全員でB－Pに敬礼。テーマ「B－Pの幼年時代」にちなんで私はB－Pの幼い頃の物語りをする。人間は何かを探す時いつも足もとを見るが頭上を見る人は少ないことを発見した話、学芸会で司会者を面白く演じた話、お小使を貯金してボートを作った話、ボートで難破した話など。



式典が終って各組単位でテーマに挑戦すべくトレールに入った。第一ポイントはキムス（24団）下町を見下す。そして公共の建築物を記憶して記載する。第二ポイント（11団）B－Pの木と称して大きな松の木の二俣に分れた枝の間を通り抜ける。第三ポイント（12団）銀河鉄道、これはロープをたよりに急な坂を下りそして上る。第四ポイント（4団）はバズーカ砲、第五ポイント（25団）ターザンブリジ、第六ポイントカウボーイ（7団）、第七ポイント宝石箱（25団）いわゆる宝探しそしてお母さん達の作って下さったとん汁は「メーフキングの食料、で寒かった日の何よりのごちそうであった。最後のポイントは全員によるメーフキングの戦（騎馬戦）であった。

閉会式の講評の中で私はキム少年の話とそしてB－Pも幼年時代にこんな遊びをしてその中からどんな事に着眼しなければならぬかを学びとったことなどを話した。日常の生活の中で一寸した創意や工夫、発想の転換、着眼点の移動、見る角度を変えてみる。そんな事が大変必要な時代になって来ている。B－Pの考えたこれらのゲームが人生に大変役立っていること

を教えているものである事を感じとってくれたスカウトがどれだけ居たかはよく解らないが今までのB－P祭のあり方の中で私は今回が最高の出来であった事を嬉しく思っている。

2月18日

中央小地区B－P祭

中央小地区コミ 玉木 功 一

今年のB－P祭は、中央小地区の全スカウトが一同に集ってベーデン・パウエルの誕生の御祝をしました。開会式の前には、各隊のカブスカウト、ボーイスカウト及びシニアスカウト達が、この日のために腕をふるって描いた肖像画をだいに持ってきて展示し展覧会を行ないました。さすがに力作ぞろいです。



カブは、カブらしい作品、ボーイはボーイらしく、さすがシニアスカウトはすばらしい作品で額に入れて持って来て展示していた。スカウト達は自分達の作った作品の苦労話や外の作品の批評などをして、ひと時を過した。次に開会式が始まり、式がすむと、ベーデン・パウエルについて話がありました。イギリスに生れ少年時代の話から、軍人時代の話そして、スカウト活動がどうして始まったのか、そしてスカウト活動が広まって行く話など、最後にB－Pの最後の手紙を読んでベーデン・パ



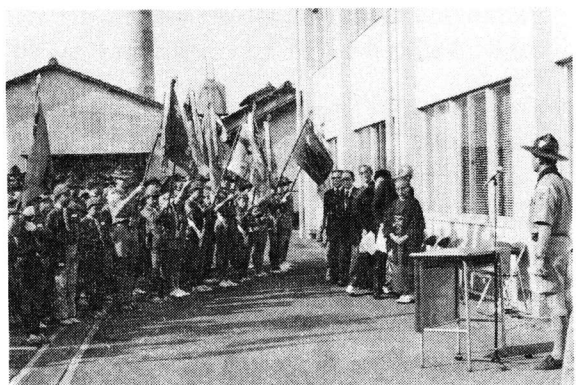
ウエルの話は終わりました。つづいてスカウト達が待っていた16%映画、北海道で開かれた第6回日本ジャンボリーでした。参加したスカウトは、なつかしそうに見っていました。カブスカウト達は、ぼくも行きたいなと口々に言っています。その他に2本上映してB－P祭とし、たのしい1日でした。

弥栄20周年浜松第10団

浜松第10団 S S 隊副長 後藤 守利

去る1月21日に、浜松市立篠原公民館において浜松第10団結成20周年記念式典が行なわれました。

浜松第10団は、昭和34年に当時の篠原村教育委員会の音頭取りにより、浜名第4団として浜名2・3団（新居町）に続いて浜松以西で12番目のスカウト団として結成され、本年度で足かけ20年を迎えたものであります。



結成発団のため仮入隊員の募集をした昭和34年は、東洋で最初の世界ジャンボリーとして、第10回大会がフィリピンのマッキンリー国立公園で開催され、白山丸で多数の日本スカウトが参加した年であり、また滋賀県あえぼ野（琵琶湖畔）では第2回日本ジャンボリーが開かれ、日本のボーイスカウト再建の礎となった記念の年であります。

記念式当日は晴天にも恵まれ、吉沢純道地区協議会長をはじめ、内田時世地区委員長、内田嘉一地区副委員長（結成時は地区コミッショナー）、宮沢広土副委員長、市川重雄副委員長、牧野緒地区コミッショナー、県連盟を代表して三輪悦爾県副コミッショナーなど結成当時を知る多数の来賓のほか、浜松・浜北地区関係者及び南部ブロックの友隊スカウトなど、スカウト関係者のほか、結成発団に尽力されるとともに事後10数年にわたり団委員長を歴任された刑部正三さん、結成の発端となった旧篠原村教育長の鈴木進午氏、教育委員の刑部安四郎氏・鈴木ワカエさんや、20年間にわたり援助とご支援を続けられた篠原



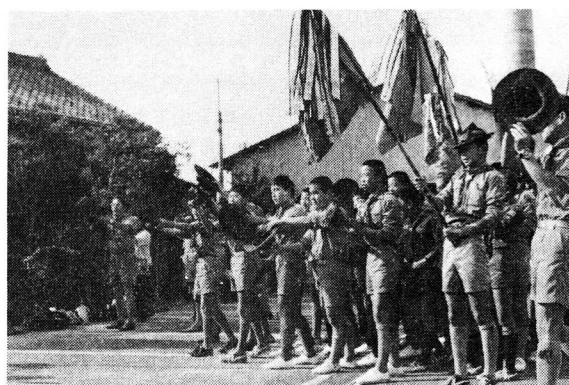
校区婦人会長さんや鈴木三代蔵氏、自治会長さんなど、篠原地区の関係来賓の方々を迎え盛大に催されました。

式典は、前述の結成時の恩人や関係者への感謝状の贈呈や祝辞のほか、カブ・ボーイの代表スカウトによる「ちかいのことば」と、友隊代表スカウトのお祝いのことば、いよさか交歓など、20年を顧る有意義な式典となりました。

また、同時に歴史を語る展示会も催され、加盟承認証・所屬隊加盟承認証・継続加盟承認証をはじめ、名簿や記念品にまじって、浜名第4団と記された発隊当時の色あせた隊旗や、各種の参加綬や年功綬も飾られ参列者の注目を集めていました。

式典終了後は、和室においてスカウトOBや来賓を囲んで当時の思い出話に花が咲いて、20年を回顧する座談会となりました。OBである第1期のスカウト達は、30才を過ぎ良き社会人として各方面で活躍しており、家庭では良き父親となっており、スカウトの種をまいてくれた指導者や関係者に感謝のことばを述べておりました。

とくに、現在のスカウト達に知ってほしい事として、結成当時は現在のように物資も豊富ではなく、仮入隊から発隊までの服装は、ユニフォームまでは手が届かず、白のTシャツに半ズボンとストッキング、それに戦後アメリカ駐留軍が冠っていた様なヤンキーハットで、質素で剛健を旨としてバイタリティーとチームワークを誇りとしていた点を強調しておりました。特に、結成後2～3年間はキャンプ用品も満足なものはなく、キャンプの度に各家庭から持ち寄った飯盆やナベ・工具・炊具類で間に合わせたほか、たまたま篠原中学校にあったアメリカ軍放出の中古テントを借用し、渋川や前浜でのキャンプの経験を積んで体験した教訓は、20年を経ても忘れえないものとなっている様でありました。



最後に浜松第10団の鈴木宗太郎団委員長のことばを皆様にお伝えして筆を置きます。「私ども浜松第10団のスカウト・指導者・団委員は、今までの先輩諸兄の努力を踏まえて、この20周年記念式を一つの節として、会後25年・30年と発展させ名実ともに立派なスカウト団となるよう尽力する所存でありますので、地区・友隊の皆さんの一層のご支援をお願いいたします。

弥 栄

スカウトの歌指導研究会に参加して

浜松第20団 団委員長 竹村 徳一

「竹村さーん」と呼ぶ声に振り返るとそこにこやかなO先生の顔があった。

11月23日新幹線待合室の朝7時前のことである。

「こんなに早くどちらまで？」

「ええ、比叡山までです」と答える私にO先生は怪訝な顔ををした。そして

「ボーイスカウトですか」と尋ねた。

「ええ」と頷く私に

「竹村さんは相変らず忙しいネー」と言って笑った。

「先生はどちらまで？」

「明日富山に研究会があるもんですから、今日は高山を観てから富山まで行きます」

O先生とは名古屋駅で別れて、ひとり冷めたい駅弁をつついているうちに京都に着いた。

湖西線に乗り換え、叡山駅に降りると7、8人の参加者と出会った。女性が多い。バスから急勾配のケーブルに乗り継いで延暦寺駅に降り立つと、深い木立の中から鐘の音が聞こえてきた。

ここ天台宗総本山延暦寺の宿泊施設、延暦寺会館の四階ロビーには、すでに十数名の参加者が集まっていた。

「只今から班編成を行ないます。静岡連盟竹村さん」
こういう時には年令の多い者が最初に呼ばれるのが通例だ。やれやれオレが一番年長なんだな。でも、オバサンもたくさん居るな等と思っているうちに開会式となった。参加者数34名。オリエンテーションの後昼食となった。食堂は地下である。広い食堂にテーブルが8列程並んでいる。200人位は一度に食事ができそうだ。ボーイスカウト研修会様、と札の立っている列を見るとカレーライス。他の列は何品かの器が並び、私共のテーブルが一番びしい。合掌し食前観を唱え、スプーンを口に運ぶ。その味のなんと…。肉の入っていないカレーライスを初めて食べた。ここは延暦寺ですぞ、肉や魚はあるはずがない、と自分に言いかけながら…。

最初の講義「音楽教育の現況と使命、題名はいかめしいが、内容は実に平易で飽かせない。みんな真剣に聞き、メモの手を動かしている。

続いてバズセッション。各班毎に話し合ってから発表に移る。

三井寺班

「大自然は音楽である。風の音、山の音、海の音、川の流れすべて音楽である」サースガ…。

たばこが喫いたい。講義が始まって、もう2時間にもなる。でも灰皿が出ていない。たばこは喫わない方が健康にいいんだ…。

休憩になるといっせいにロビーに飛び出して灰皿を囲む。休憩10分すぐ次の時間が始まる。

歌唱指導の講義の冒頭に浅香先生が言われた事を記しておきます。

「歌は歌えるような雰囲気の出演が必要だ。プロではないから

上手に歌う必要はないが、正確に歌わなければいけない。しかし指導者はスカウトより少しは上手に歌えるようになりなさい」私の日頃考えていた事を先生の口からお聞きして意を強くした。

夕食は精進料理。野菜が主で、ユバ、ゴマどうふ、などなかなか手がこんでいる。

夕食後19時から21時までは夜のつどい。昼間班会議の時に作った班歌の発表である。いろいろおもしろい歌が出た。

10時消灯。ロビーの自動販売機の音がやけに耳につく。

6時起床。外での朝礼もあまり寒くない。三日目のハイキングを除いては、室外へ出るのは一日の中でこの時間だけであった。

朝食の献立を記す。

ごはん、どんぶり少々、わかめの味噌汁、のり、梅干し1コ、つけ物少々。精進料理は血圧の高い人にはいいようだ。胃のためにも…。

参加者34名中団委員は2名だけで、他はすべてリーダーでした。最後の日に「この研究会は本来各地区に於いて歌の指導をする人達のための研究会ですが…」というお話がありました。が、参加者の殆んどが自分自身歌を覚えたくて来たようでした。テープレコーダーを持って来た人も10人程居ましたが、このことに触れて、「テープ音楽には心がない、皆さんが録音したものをそのままスカウトに聞かせてはいけません。テープに録ったら、それで聴き覚えてからスカウトに教えるようにして下さい」と言っておられました。

無伴奏の歌と指揮法、では幾人かの人に指揮の実習をさせましたが、歌の指揮などするのは初めての人ばかりで、それはそれらもう…。

私も指名されて2曲指揮をしました。が、終わって浅香先生から「あなたはたいへん慣れているようですが、音楽関係の仕事をしているのですか」と聞かれて嬉しかったり恥かしかったり。

和音とか和声についての講義もあり、かなり程度の高い内容もありましたが、夜、班の人達に聞いてみましたが全く理解できなかったようでした。和音とか和声は実際に楽器を扱った事がなければ、むずかしいかも知れません。

三日間歌もたくさん歌いました。久しぶりに大きな声で歌いましたが、私の一番困ったのは、メロディーはわかっているのに歌詩を知らない事でした。歌詩を完全に知っていなければ歌えないものですネ。朝起きると声がかすれてしまって出ない日もありました。

最後の日の朝5時起床。止観（座禅のこと）を行いました。風の音も全くなく、1メートル程離れて座っている人のツバを呑む音がゴクンと聞こえてくる程の静寂の中、ただ一本のローソクの灯りがかすかにゆれる国宝根本中堂の板の間に座し、しばし俗世界の事を忘れたひと時もありました。

終了証を手には、バスで比叡山ドライブウエーを下る時に振り返ると、山は霧の中にかすんでおりました。

第14期浜松地区班長訓練野営

昭和54年3月22日～25日 於引佐町渋川・川宇連野営場

班長になったら

川隊信濃班 溝口純生

いま4日間のキャンプが終りようとしている。残るは、撤営だけとなった。

この班長訓練では、いろいろなことを学んだ。いちばん心のこるのは、営火と地図、コンパスについてだった。

シルバーコンパスの使い方も満ぞくに知らなかったのが今知ることができた。

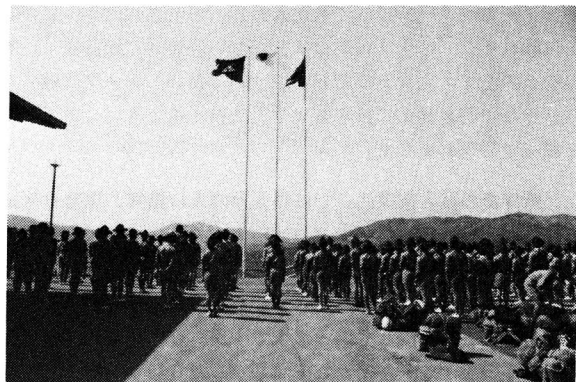
このことを隊にもち帰り班員に教えていきたいと思う。

中には、連絡をしない班長がいる。連絡をしないと班員は何も知らないからしっかり連絡をしていきたいと思う。

今までは、班集会、班会議などたいしたことはないと思っていた。しかしこの班長訓練がおわるとそのような気持ちはなくなり大切さを知った。

だから班長になったら班集会、会議を積極的に行っていきたいと思う。

4月になって班長になったらよい班づくりに努めていきたいと思う。



班長になったら

川隊信濃班 沢木秀穂

班長になったら……

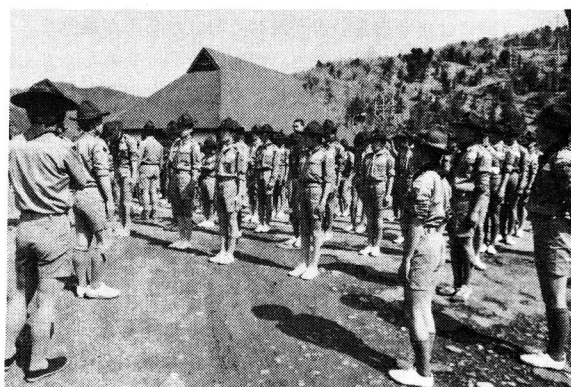
そうだなあ、まず班会議を開いて、議長をやっていばってみたいものだ。思えば小学六年生の時ボーイスカウトに入ってずっといままで班の手足となって働いてきた。水くみ、食器洗い、まき集め、せんたくなど班員のいやがる仕事は、みんなぼくがやったものだった。それも、もうすぐ終りに近づいていると思うとうれしくてたまらない。しかし、そんなことではよるこんでいれないと思う。班長になったら一つの班をまとめていく任務があるのだ。ぼくは、ぼくが経験したような班員のいやがるようなことを全部初級に押しつけるようなことはしたくない。みんなに平等に仕事をわけて、みんなに尊敬されるような班長になりたい。

また、班集会では、班員にばかにされないようリードしなければならぬと思う。

班長になったら

川隊 あゆ班 森下直樹

ぼくは、来年度の12団ボーイ隊の班長又は次長になるのです。班長訓練野営に参加しました。観音山から、川宇連までの移動キャンプでした。一日目は、観音山少年自然の家でリーダーたちのこう議をうけました。次の日に観音山から川宇連まで14kmのハイキングでした。20kgぐらいあるにもつをせおって歩きました。とてもおもくてとても歩けそうもありませんでした。しぶ川から、川宇連まで、スカウトベースをしると、11団の富田隊長が言ったので、はしりました。車でうしろからおしてくるので、あるくととてもしかられました。川宇連についたときはほっとしました。次の日も雨の中を、ハイキングに出かけました。ついた時は、びしょびしょできがえてもとてもさむく、よるもねれないほどでした。これらの三泊四日のけいけんを生かし、班をひっぱっていきたいです。



もう一年おそく

とり隊にわとり班 石川勝洋

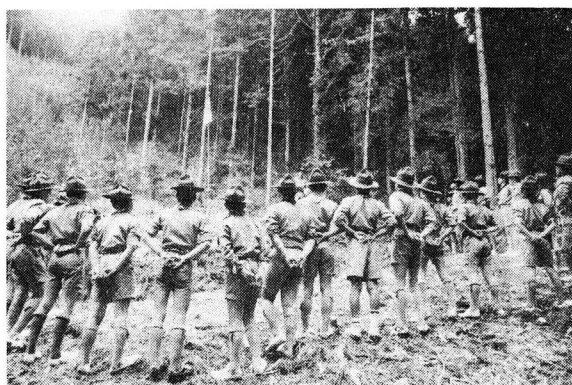
ぼくはもう1年おそくこの班長訓練野営にすればよかった。それはぼくともう一人の6年生は初級と6年ということで中1の人たちに自分たちのいやなことはどんどんおしつけられてもうてんでこまいしてしまった。ねる所もぐしゃぐしゃ、だからぼくももう一年おそくこれたらと思った。6年でいけるということはとてもいいことだと思っていた。しかし、班長になったらこのぼくの気持ちを大事にして初級の気持ちを考えよい班長になりたいと思った。そして、今日の班訓でならったことを班員にいてねいに教えたいと思った。

班長になったら

とり隊 カラス班 鈴木京太郎

ぼくは、今度の班長訓練野営から、いろいろなことを学びました。雨の中でのごはん作りは、ジャンボリーでも、経験しましたが、ジャンボリーの時は、先輩たちが、いろいろとやってくれたので、よかった。しかし、班長訓練野営では、たよる人がいなく、自分達ですべてやらなければいけません。少し、リーダーの手をかりてなんとかきりぬけてきました。そして最後の日、かんじ作業もやってしまいあとはてっしゅうだけとなった今思うことは「やさしい班長になろう」「たよりになる班長になろう」「物しりの班長になろう」と、いろいろなことが、ぼくの頭の中ををかせめぐっています。ぼくが班長になったら「責任感」をつよくしろうと思います。

最後に、ぼく達のおお世話をして下さいましたリーダーのみなさん、父母、そしてその他いろいろな人達に「ありがとうございました」という気持ちを持ちたいです。この3泊4日、川宇連の森ありがとう。



班長になったら

とり隊 スズメ班 桑原 強

今、この地にいるぼくが班長になったら次のことをやってみようと思います。

はじめにやりたいことは、今までの班長のように、すぐ初級に、「おい、水くみやれ」とどなる前に自分でやってみて、おしえてあげるといような、やさしい班長になりたい。もう反面は、まちがえたことを、初級がやったらなっとくのいくまで注意するこわい班長にもなりたい。まあ 100パーセント班長になれるとは思わないが、なんとか 100パーセントの班長に近づくように努力したいと思う。

班長になってやってみようことは、初級にこの班長くんれん野営で覚えた立ちかまど・ロープ結び・テントの位置・雨の日のようすなどを、ありのままにそのままそっくり、おしえてあげたいと思う。

ここでいろいろなことを覚えたが、その自まん話だけでなく苦しかったこと、なみだが出たこと（けむりにまかれた）も、さんこうになるように。

班長になったら

けもの隊狼班 竹村 謙

自分が班長になったら、まず班員が自分で自信をもって何でもできるような班員を作りたい。だがその前に自分じしんが何でもできるような班長になりたいです。

キャンプに入って隊長にいつもガミガミおこられないようにすばやく動いていつもゆうしゅう班になりたいと思う。ぼくたちが班長くんれん野営で覚えたことを次のキャンプで班員によく教えるばらしい班を作りたいと思う。それと今の班はときどきなまわれすることがあるのでチームワークをしっかりとしていきたい。

それとこの3 ぼく4 日でけいけんした雨の中でのごはんきなどげん隊にもどってからいつかやくだつことがあると思います。テントのことで時間がかかってもいつ雨がふるかわからないのでそっこうは、しっかり、ほっておきたいと思います。

それから、ぼくらの班のしんにゅう隊員は、食たくの作りかたも立ちかまどのつくりかたもわからないので、これからびしびしおしえたいとおもいます。それからこんどのキャンプでは、木にロープをまきつけるとき、しんぶんしをまかずにまいたのでこれからはしっかりやりたいと思います。



班長になったら

けもの隊チーター班 加藤 悟

ぼくが班長になったらまず、班員にちかいとおきてを暗記させたい。自分もまだ絶対暗記というまではいかないが、げん隊に帰ったらちゃんとおぼえたい。

それから班旗をちゃんと作ることだ。ぼくたちの班の班旗はあるかないかぐらいかんりが悪く、先輩でさえどこにあるか知らないという。だからちゃんとぼくたちの班名「タイガー」のはいった旗をつくりたい。しかし、自分自身の目標はまず二級をとること。あとやってないのは手旗。手旗をおぼえて二級になりたい。

しかし、自分だけがはりきっても班員がでてこなければもとももない。

自分は今度中二。もうすぐ勉強がいそがしくなるのに、だいたい班員は今度中一。

中学に入ったばかりできんちょうしていてでて来ない。こういう時はちゃんとでて来ないかと言う。

そのくらいの自信をもって班員とともにやりたい。

* 浜松第10団 * スカウトのひろば *

一年間の思い出

カブ隊1組 鈴木啓介

ぼくは、一年間をふりかえり、多くのことを学びました。前浜での清掃でたくさんのゴミの山にはおどろきました。湖西連峰のハイキングで道しるべや記号のようなものをおぼえました。

八月の暑い日、朝霧高原でのジャンボリーでは、多くの友達のお国自まんはとても心にのこりまた「夜の楽しさを味わいました。奥山では、アスレチックと工作をやりました。そして1月、20周年記念をおこなったことなど、楽しかった1年間をふり返り、隊長さんからデンマザーさん達には、とてもお世話になりました。

これからはボーイに進級しますが、今まで教えていただいた事をしっかり守り、がんばりたいと思います。どうもありがとうございます。

カブスカウトの思い出

カブ隊 座間正芳

このカブスカウト時代に一番心にのこったものは、ウサギのときに行った、たつ山村だ。そのときは、かけ絵をやった。どの組も、とてもうまいかけ絵だったが、今でもぼくたちが一番うまかったように感じる。それと、夜ねたバンガローだ。それは組ごとにわかれていて、ベッドはあるがふとんはないのでみんなねぶくろでねた。そのときぼくはなかなかねむれなかった。それと、ごはんもおいしかった。くしにさしたパーベキューがあった。食べたところは、外にあるテーブルの上だ。ふうけいがよくみえて、ごはんが今まで以上においしかった。

二番目は、くまのときに行ったジャンボリー見学だ。皇太子と美智子様は、よく見えなかったが夜のつどいなどは、とてもよく見えた。外国人もいた。その夜は、日本ランドにとまった。とてもさむいと感じたので、ぼくはくつ下をはいてねた。よく日ラジオ体そうをやりバスにのった。すると、ぶどうがりをするとところについた。ぶどうはとてもおいしかった。今でもぶどうのあじがわすれられない。ぼくは、バスでよってはいけないと思いつつおどろいておいた。おべんとうを食べ、ぶどう酒をかい、バスにのり帰った。

そのようなことが、今でも心にのこっている。ぼくは、この思い出を心の中にだいにしまっておきたい。ボーイスカウトになってもこのような思い出を作りたい。

カブスカウトに入って

カブ隊 細川典孝

ぼくは、三年前にカブスカウトに入りました。始めは、自分のことが自分一人で、できるか心配でしたが、どうにか皆と一緒に進むことができました。組集会の時にデンマザーにしかられたり、ピクニックの時お弁当をお母さんにもってもらって隊長におこられたり、いろいろな思い出があります。

その中で一番心にのこったことは、四年に一度という日本ジャンボリーに見学に行った事です会場についた時は、バスがあ

まりたくさんあったのでびっくりしました。人、人、人でした。

ぼくたちはまず始めにボーイのお兄さんたちのキャンプに行きました。

次に式典を見学に行きました。何しろ暑かった。夜になってからお国じまんのもよおしものがありとても楽しかった。外国の人もずいぶんいました。ぼくたちは、その人達にサインも嬉しかった。ぼくは、カブスカウトに入って本当によかったと思いました。

班長訓練に参加して

ボーイ隊 刑部裕一郎

22日に出発して3泊4日の班長訓練野営に参加した。知らない人達ばかりと班を作りなんとなく不安だった。しかし、みんないい人達ばかりでとても楽しかった。

1泊目は観音山少年自然の家に泊る。消燈の時間になってもなかなか眠れず、次の朝眠くて困った、2日目は川宇連まで歩く。途中川原で食べたおにぎりはおいしかった。遠い道のりだったがそんなに疲れなかった。3日目この日が1番つらかった。時間がなくて昼ご飯も食べず、雨の中のハイキング、道に迷い最後まで行かず、途中で引き返した。その夕食と、本部から持ってきたぜんざいは、塩からかったけど昼食ぬきのせいがとてもおいしかった。

いろいろ教えてもらい、お話もきき、始めて知らない人とも友達になり、つらい事よりも楽しかった。

これから1年班長として不安もあるが、わからない事は隊長に聞き、班員達にも協力してもらい一生懸命がんばりたいと思います。

『班長訓練』

ボーイ隊 那須田祐輔

3月22日から25日まで、渋川で行なわれた班長訓練野営に出席しました。22日は1日中講議ばかりで、メモをとるのに大変でした。講議では班長の任務について話し合った。そこで班長は、班をまとめ指示し、みずから実行して班員を指導することをおしわった。そして他の団の人たちとも仲よく話ができるようになった。23日は20キロも重い荷物をしょって歩いた。その間には関所があり、ロープや簡易測量をやり、いろいろなことを覚えました。なかでも垣根結びがむづかしくて手間をとった。目的地に着いたのは2時だった。24日、雨が強く降りだしたので、みんなあわてて、水、マキの確保をした。それから雨の降っている中を、またハイキングに行き、途中道をまちがえてしまった。それは道が2つに別かれているところで、みんな方向や地図をろくに見ないでいいかげんに決めてしまったためにこんな大きなまちがいをおこしてしまった。あとから「あの時しっかり地図を見ていれば。」とみんなで反省をした。25日最終日の朝、「今日帰れるのだ。」と思ったら、うれしくてたまらなかった。それは、この3日間のきびしい訓練をやりとげた喜びでもあると思います。このきびしい訓練を自分たちの班にもどって、十分いかし、よりよい班作りをしたいと思いました。

* 浜松第16団 * スカウトのひろば *

スキー訓練

カブ隊3組 宮本恵祐

昭和54年3月27日、ぼくにとって2回目のスキー訓練に行く日だ。バスに乗っているとき、なかなかつかないで、むねがドキドキした。ついたときには、はやくすべりたいナァと思った。自分のスキーぐつ、板をさがした。朝礼が終って、ABCにわけた。ぼくはBになった。初めはじゅんぴ体そうをした。次に、すべるれんしゅうをした。1日目は、ぼくが雪になれていなかったのでもうすべれなかった。2日目は、ぼくは組がかわった。2日目は、うまくいった。このスキーはとてもたのしかったです。

スキー訓練

カブ隊5組 佐野 功

3月27日から31日までやったスキー訓練。最初に朝れいをして組わけをした。ぼくたちの指導者は松田正久先生だ。朝れいが終りいよいよスキー訓練が始まった。最初にプルークを教えてもらい、しゃっこうやプルークボーゲンも教えてもらった。前よりはうまくなったと思うけど先生におこられたりころんだりしてしまった。それで、ぼくははしゃっこうが好きなので訓練中にやりたくなくなってしまったがおこられると思ってやめておいた。けれどもとてもいい先生なので、このあともずっとおしえてもらいたいと思う。

きびしい班訓

永井信夫

「おい、かまどの火は消えているか?」「うるさいなあ」もういやになってしまった。

第14回班長訓練野営での事である。今回は今までで最低の班訓だった。ぼくは去年、班訓にでているが今年は上班として参加した。とにかく隊長に注意されたこともやらない。かまどのあつかい方、そっこうのほり方もめちゃくちゃだ。今年はこんな人たちが班長になるのかと思うとやりきれない。キャンプで、やるべき事をなまけると、自分が困るという事を忘れないでほしい。一日や二日のキャンプならともかく、一週間ともなればもうノックアウトだ。それに今回は一日の雨でヒーヒーいっている。もし3日も4日もふり続く雨ならたまったものではない。みんなはキャンプをどう考えているのだろうか。ぼくは小さい



が一つの生活（食・住）と考える。衣というのはピンとこないが食住はピンとくる。だからより快適な、よりいごちのいいキャンプを目指すのだと思う。キャンプは訓練とともに生活をかねるという考えはぼくの勝手だが一つの目標にはいいと思う。

ボーイスカウト活動

ボーイ隊 前川慶二

ぼくは、長いようで短かった3年間をボーイスカウトとして活動してきて本当によかったと思っています。いろいろな体験をしました。隊野営・奉仕作業・廃品回収……そして日本ジャンボリー、ほとんどが苦しかった思い出として残っていますが、苦しいなかにもいろいろな教訓を見出すことができました。また、技能も向上し、今では1級スカウトとして活動しています。野営も入ったばかりの時とは違い、教える立場として進んで取り組んでいます。

この3年間で最も印象深かった思い出——やはり日本ジャンボリーだと思います。ジャンボリーでは初体験が重なりました。雨の中での設営、外国人スカウトとの交流など、その他いろいろありました。雨の中で、強風にも耐えて建てたテントは、それまでに努力してきた活動の成果といえました。それから、あの劇的な開会式では、ただ興奮するばかりでした。他にも思い出として残っている行事もあります。忘れられない1週間でした。

このジャンボリーをはじめとするすべての行事が思い出として残っています。価値のある3年間でした。これからもボーイスカウトとしての名誉を汚さないように、またまた誇りをもっていきたいと思っています。



スキー訓練

カブ隊3組 津々木一隆

昭和54年3月27日、8時にバスで出発した。それで朝の6時についた。そして妙高ホテルに入った。そのあと9時になってから朝礼をやった。準備体そうをしてすべる訓練をした。ころんだ人が多かった。午後にはリフトにのって下におりながら練習をした。1日目はそんなにすべれなかった。それで山田先生におこられた。

2日目はリフトに午前中2回乗った。そして曲がる練習をやりながら下におりた。午後にもリフトに2回乗って、少し上の方までリフトで行った。今日は少しむずかしく思った。

* 浜松第18団 * スカウトのひろば *

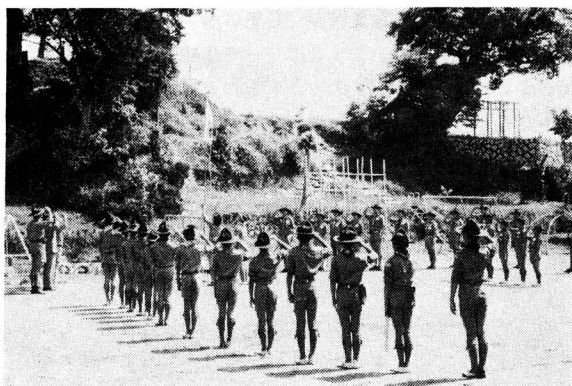
上進式の日

ボーイ隊ワシ班 江塚啓人

ぼくは、カブスカウトからボーイスカウトに上進した。

カブスカウトの仲間が作ってくれたアーチをくぐり、橋をとんだ。「この橋をとばないと、ボーイスカウトになれないよ」と言うのでぼくは思い切りとんだ。やっとボーイスカウトの一員になれたので、とってもうれしかった。それから、班の発表があり、ぼくは、驚班だった。この班の中には、知っている先輩がいたので、気強く感じます。

カブスカウトの時は、隊長やデンマザー、親などに後おしをしてもらったがボーイスカウトになったからには、規則をよく守り、自分たちで実行していくことによって、りっぱなスカウトになれるんだなあ、とぼくは思った。



「一人だけの誓の式」

ボーイ隊カモシカ班 鈴木 弘

昨年12月3日、ぼくたちの隊は三岳山へハイキングに行った。金指の駅まで自動車で行ってそこから出発した。少したった所で現在地の確認を習って、また出発した。

この日はものすごく寒かったので、足の先がこおりそうだった。そして何時間かたって三岳神社に着いて、標高差の出し方を習って弁当を食べた。こゝから山頂に向かったが、だんだん道がけわしくなってきた。頂上に近くなってきた。やっと頂上に着いた。

「やれやれ、やっと着いたか」と、とてもつかれた感じだった。荷物をおろして少し休けいしてぼくの誓の式をやってくれた。隊旗と隊長に三つの誓いをした。うまく出来た。そして永遠のスカウトを歌った。ボーイスカウトに入って一番ほしかった初級章をもらって誓の式を終った。

ぼくはみんなより一年近くおくれで入隊したので、一人きりの誓の式だった。がんばって早くみんなにおいついて、そしておいこそうと思った。

山頂から尾根づたいに滝沢展望台に下った。そこから自動車で帰途についた。

ぼくにとっては忘れられないハイキングの一日だった。

班長訓練野営

ボーイ隊ライオン班 村松京市

ぼくたちボーイスカウトの次期班長の者は、3月22日から3泊4日で観音山少年自然の家と渋川の川宇連野営場まで、班長訓練野営に行ってきました。

1日目は、少年自然の家で比較的らくでした。でも班長の任務についてとか会議集会の流れと必要性について、セレモニーについて……などのいろいろなこうぎがあり、それを風呂に入る時間がないほどやったり、夜は寝ぶくろで寝たりしてさすがに班長訓練だなと感じました。

2日めは、少年自然の家から野営場までの移動ハイイク。個人そう備を1人1人背負って10数キロの道を歩きました。野営地に着くとすぐ設営で、夕食はもう自分たちで作りました。でも自分たちで作ったのはみそ汁はうすく、ご飯はかたくて、肉は半なまだだったのでろくに食べられませんでした。

次の日はどしゃぶりの雨の中で基本動作や鳶ノ巣山までのハイキング。その日は、雨で昼食ぬきでした。

最終日はだいたいつ営だった。

ぼくは、自分の隊に帰って班長になったらこの4日間のことをよく思い出していろいろと班員に教えていきたいと思う。4日の中には雨の日もあって、まきの確保とか、かまどの雨対策そっこうの大切さなどを知り、下着までグショグショになったけどよかったと思っています。できれば班活動を活ばつにし、班集会も月に2回ぐらいはやっていい班を作っていきたいと思っています。

班長訓練野営に参加して

ボーイ隊カモシカ班 尾身 明

ぼくは、班長訓練野営に参加して、良かったと思います。それは、今までの野営とはちがい、いろんなことを学ぶことができたからです。

1日目……観音山少年自然の家で開所式や、いろいろな話し合い。感想……いろんなことを聞いているうちに、頭の中がこんがらがってしまった。

2日目……観音山少年自然の家から引佐町、渋川、川宇連野営場、奥土場までの移動ハイキングや、設営。感想……ハイキングといっても、3泊4日に必要なものを背負ってのハイキングなので、非常につかれた。それに、設営がうまく進まなかった。

3日目……いろいろな実修。感想……いろんなことを雨のふる中でやったので、くつや服がびしょびしょになってしまった。

4日目……てつ営や閉所式。感想……朝食や、前日の食器が洗ってなかったり、そっこうがきちんとうめれなかったり、ごみがあちこちに落ちていたりして、てつ営がはかどらなかった。

こんな具合でしたが、いろんなことを学んだので非常に良かったと思います。

* 浜松第20団 * スカウトのひろば *

一人っ子のカブスカウト

カブ隊 鈴木秀司

ぼくは、もうカブスカウトに入って二年たちました。はじめのころは、家の人たちが「一人子だからカブスカウトに入るといいよ」と言ったので、ぼくは少し心ばいだけど入りました。はじめのころはなにもわからなかったけど、だんだんにおぼえてきました。入隊式の時もゲームをやったり、かえ歌をやったり、ものまねをやったりしておもしろくておなががよじれそうでした。

夏は、しゃえいでバンガローへ行ったり、冬は、クリスマス会、スキー、スケート、なにもかものしいことばかりです。その間にも、いろいろ集会があります。しゃえいの時に食べたカレーも皆で食べるので、おいしいカレーが、いっそうおいしくなります。

ソフトボール大会、いもほりも、たのしい集会です。ソフトボール大会では8つのチームに別れて、はじめました。そしてぼくたちのチームがゆうしょうしました。いもほりのときは、ぼくたちの組が、大きいおいもや小さいおいもがたくさんとれました。

ぼくが、カブスカウトに入って一番よかったなど、思ったのは、みどりのはねを売りにいったときです。ぼくたちの組が一番よくうれました。

これからも、カブスカウトでいろいろよいことをしていきたいです。



ボーイスカウト活動

ボーイ隊 鶴見明彦

ちょうど、ぼくがボーイに入ってから、早くも一年という月日がたってしまった。今までに、野営、デンチーフ研修会、隊集会などの多くの思い出があるが、一年前の上進式も、思い出の一つだ。「月の輪」のころ、ちかいとおきてをいっしょうけんめい覚えたが、今それに従っているか？と時々思うことがある。よく考えてみると、30%ぐらいしかそれに従っていないのではないかと思う。それでは何のためにボーイスカウトに入ったのか、わからない。日常生活も、少しだらけ気味のように思

える。この時点で大いに反省するべきだと思う。

今度中1になって部活などで集会に出れないときもあると思う。ほかにも、いろいろと用事があつたりして出れないときがあるかもしれない。それだけに、もっともっとがんばらなくては行けない。もう一度ちかいとおきてをよく覚え、それに従いスカウト活動にはげんでいきたいと思う。



リボンさがし

カブ隊 中村元昭

ぼくが新入隊員だったときのことです。夏のキャンプに春野町のこいしまバンガローへいきました。

二日目の夜間ゲームでリボンさがしをやりました。組で3人の人をえらびその3人がリボンをさがしました。ぼくたちの組では、はかまた君と竹山君とぼくでした。かいちゅうでんきもぼくのにきまりました。隊長が「よおい、どん」といいました。代表の人はいっせいはしっていきました。ぼくたちは、みんなのいる所の近くをさがしました。ぼくはかいちゅうでんきでたっているまわりをてらしました。はかまた君が「かいちゅうでんきかして」といって、かいちゅうでんきをもって自分の前をてらしました。そして30秒後、はかまたくんは「あった」と大声でいきました。ぼくたちは隊長の所へ走っていきました。そして1位になりました。1位と2位の差はとてもながかったです。なかには見つからない組もありました。そして、見つからなかったくみは次の日にさがしたそうです。

カブスカウトに入って

カブ隊 斉藤幸定

ぼくがカブ隊に入ったのは、ちょうど二年前だった。母に連れられて、入隊式に行ったことが思い出される。上のスカウトがとてもえらくりっぱな人にみえて隊長がかけてくれたネックチーフを手でさわってみたことをおぼえている。舎営や夏のキャンプBP祭、組集会と楽しい思い出がいっぱいできた。いつも隊長の号令で、一生けんめいがんばって組が優賞した時は、本当にうれしくなる。

今年は組長だ。今までの組長に負けないくらいがんばらなければ新しいスカウトとも早くなれて楽しい組にしたいと思う。

* 浜松第23団 * スカウトのひろば *

僕の決意

ボーイ隊 フクロウ班 中野 弘 一

最初、この団に入ったときは、うまくやっていけるかなと思いました。

それは、団員がたったの五人だったからです。しかし、一年間二十団の人にせわになり、二年目から本格的に二十三団として活動しました。そのときは、団員が十人になりました。このときごろから自分たちで団の伝統をつくりあげていくんだという気持ちになってきました。そして、ほかの団と同じような活動をして見ましたが、ほとんどが失敗でした。でもとてもいい体験になりました。

今年で二十三団に入って二年目になるのでいままでの体験をいかして、少しずつ団の伝統をつくりあげていきたいと思います。

「発隊する二十三団」ボーイ隊

ボーイ隊 フクロウ班 辻村 浩

浜松二十三団のボーイスカウトは、今年の春発団します。

ぼくは、他と四名と、一年二十団に、おせわになりました。

その次の年（今年）六年生が入ってきて、野営をした。新入には、「まきひろい」

と、言ったまでは、よかったが、もってきた薪がぜんぶ、小枝ばかりだった。それだけだったらまだよかったが、食器洗いをせずに火の前にばかりきていた。とにかく新入は、だらけていた。

また、夜間ハイクがなかった。

隊長が十二月ごろやるといったが、やらず、三月に予定したのに雨でおながれになった。今度、キャンプの日にとやるが、それもあてにならないと思う。

まあ自分たちもだらけていたが、もっとだらけていると思う。今度の上進式にはまた新入が入ってくるから、今年の十人とあわせて、多くなるから、発団する。

ぼくたちが、いち番はじめの、ボーイ隊のそつ業生だから、二十団にあった伝とうというのを、二十三団につくりたいと思う。

ボーイスカウトに入って

ボーイ隊 鈴木 元 一 朗

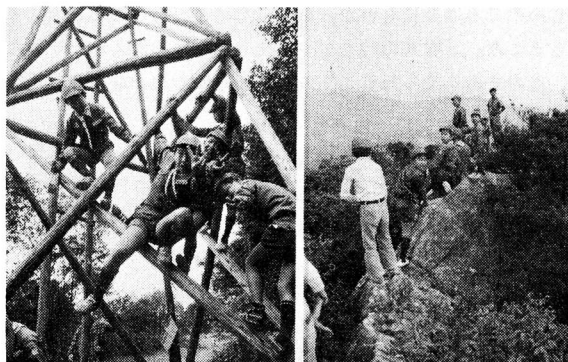
ぼくがボーイスカウトに入ってまず思い出になったのは初めてやった野営です。

入る前に月のわで、テントをはる練習をすこしやってあまりうまくいかなかったけれど、今度是真的野営なので、うまくはらないと雨が入ってしみこんできたり、たおれたりすると困るのでいろいろなてんに気を付けました。テントをはってからまわりにみぞをつけないけませんでした。ぼくも入れて三、四人でやったけれど、とても時間がかかりとてもつづかれました。

夕食の時間になって作って食べ終わるとかたづけはぼくたち

新入りがやりました。とても水がつめたくて手が自由に動かせませんでした。

そしてねる時がきました。その時はもう雨がだいぶふっていました。テントの中でいろいろしゃべりながらねました。次の日朝食を食べていろいろテントをかたづけたりしてから帰りました。とても苦労したけれど初めての野営は楽しかったです。



ボーイスカウト生活

ボーイ隊 脇本 雅彦

ボーイスカウトでの生活で体験し身に感じたことで奉仕活動がある。

それは、お彼岸の時期になると僕は鴨江観音に緑の羽根を売りにいく。そして、「緑の羽根にご協力お願いします。」という声をだして売っていく。そして、僕も同じように声をだしていた。そうしたら向こうの方から一人のおばさんと一人のボーイスカウトの制服を着た少年が歩いてくるのに気付いた。そして何だろうと思って見ていると、少年が大きな包みぶくろをもっている。多分あのおばさんのものだろうと思った。この光景をみておなじボーイスカウトとしてうれしくなった。

僕も今までいろいろ沢山奉仕をやってきたつもりだ。バスの中で老人に席をゆずったり公園などでゴミを拾ったりしてきた。

だからこれからも今までどおり人々に奉仕をしていきたいと思います。

ボーイスカウト早くも二年目

ボーイ隊 ふくろう班 後藤 高 志

ボーイスカウトに入って早くも一年がすぎ二年目になります。ぼくたち23団もやっとな発隊します。入ったばかりの時は、まだわからないことがあり、先輩の人たちに教えてもらいました。

時にはキャンプでねぶくろにカン詰めものをつけてたり、雨の日テントの中が雨もりのためにこう水になったり、地区大会のオリエンテーリングで1位になったりで一年がすぎてしまいました。

今度是新入隊員がきてぼくも教える方にまわります。しかし、まだまだぼくも知らないことがあるので教えてもらいながら教えるつもりです。そして良いスカウトになれるかどうかはわからないけどがんばります。

* 可美第1団 * スカウトのひろば *

B - P 祭に参加して

カブ隊5組 渭原 正一

ぼくは、朝行って小屋を作っているのが目にはいりました。うどん、ジュース、わたがしなどの店でした。

最初、まだ始まっていなかったんで、タイヤの上ののって遊びました。

開会式が始まり、しーんとなりましたが、いつもとちがうので、気持ちが悪くなりそうです。すぐに終わりました。

その後、ミニ運動会をやるので出場者をきめました。ぼくと松本と根本です。みごと1位になりました。これは、隊長のおかげです。なぜかという、ものすごくはやく順番がまわってゴールイン。すごくうれしかったです。

その後、わたがしを食べました。すごいこみようです。五分ぐらいでようやっと食べれました。うどんも食べ、ジュースものみました。ぼくはジュースを三ばいのみました。

閉会式をやったのしい1日がまくをとじました。



可美第1団カブ隊5組 渭原正一

「去年よりうまく行ってとてもたのしいな。」と、思いました。お昼のすこし前にスキー場の角度のある山のすそのでやりました。始めは、少しこわかったけれど、だんだん慣れてこわくなくなり、すべるのが気持ちよくなってきた。午後はもうすこし高い所からすべった。めがねをはずすと顔に風があたりとても気持ちがよかったです。登ったりすべったり、そのくりかえしを何回もやるうちになれてきました。スピードの調整も、上手にできるようになって「1回でもたくさんやりたい。」と思うようになりました。

3時ごろになって自由行動になりました。するとお母さんがきていました。その夜は部屋になれてぐっすりねむれました。

今日はいよいよ最後の日です。朝9時から始めました。始めはパンくい競争で、1回めに1位をとってみかん1つ。2回め2位。3回めに1位をとってまたみかんをもらいました。今度は少し高い所からみかんをとりスタートして3回やりました。きょうぎが終わると先生が「ちょうじょうへ行くぞ。」といったので、登りました。ちょう上で、写真をとりました。富士山がきれいにみえました。4回ぐらいすべってスキーをおわりました。まだすべりたい気持ちがしました。

帰りは、大人の人たちが上手に歌を歌って、楽しく帰りました。



「楽しかったスキー」

カブ隊6組 中村 登

バスからおりとあたりは銀世界でした。ねているところをむりやりおこされたので、その夜は目がさめてねむれませんでした。「はやく朝がきてスキーをやりたいなあ」と思いました。やっと朝がきました。ゼッケン42番をもらってスキーをかける所へ行きました。そしてスキー場に出てみると思ったよりいい天気、夜につもった雪がキラキラ光っていました。

先生がきてスキーのはきかたや、ストックのもち方をおしえてくれました。はじめは、角度のあまりない所で、まがり方やとまり方をならいました。



古代進

可美第1団カブ隊6組 中村登

思い出

カブ隊1組 鈴木 秀則

組長となって、カブスカウト、として最後の1年も終わろうとしている。

苦しいことよりも楽しいことばかり思い出される。新しい制服にネッカチーフをかけてもらった、入隊式のこと、キャンプでは飯ごうで初めてのごはんをたいたこと、ハイキング、ソフトボール大会など次々におもい出される。

昨年は夏のキャンプがとてもたのしみだった。なぜかという、ぼくはいつも夏のキャンプのとき組長っていいなあと思っていた。それはぼくたちがねていると「早くねろよ」とか言ってみたり、少しいばれるからだ。ぼくも昨年はいばってみた。そしてデンマザーさんの目をぬすんで仲間と話をしたりして、夜はぐっすりねた。

次の日は、はじめて竹とんぼや、紙飛行機を作った。はじめでナイフをもったにしては、うまいと自分は満足だった。

あともう少いでボーイスカウトだ。とちゅうでくじけることなく、よいスカウトになりたい。

第14期班長訓練野営参加者

と り 隊

○にわとり班

引佐 2 (2級) 柳田 哲也	浜松22 (2級) 大石 信生
浜松21 (2級) 鈴木 知樹	浜松15 (2級) 村松 克昭
浜松15 (初級) 山下 昌之	浜松14 (2級) 曾根 宏之
浜松 6 (初級) 石川 勝洋	浜松 1 (2級) 田端 正明

○すずめ班

引佐 2 (2級) 堀内 悟	浜松22 (2級) 小田 信吾
浜松21 (2級) 原 信幸	浜松15 (2級) 平山 一久
浜松15 (初級) 中村 雅樹	浜松14 (2級) 富田 佳明
浜松 6 (2級) 近藤 崇夫	浜松 1 (2級) 桑原 強

○ペンギン班

引佐 2 (2級) 巨島 信慶	浜松22 (2級) 中谷 哲己
浜松21 (2級) 加藤 和宏	浜松15 (2級) 宮崎 英史
浜松14 (2級) 川島 健治	浜松 6 (2級) 片橋 昌樹
浜松 6 (初級) 山口 一則	浜松 1 (2級) 稲垣 一宏

○ふくろう班

引佐 2 (2級) 内山 泰之	浜松22 (2級) 山崎 俊和
浜松21 (2級) 松下 和雄	浜松15 (初級) 鈴木 洋太
浜松14 (2級) 小出 寿彦	浜松 1 (2級) 大石 隆文
浜松 1 (2級) 天野 裕之	

○カラス班

浜松22 (2級) 大森 元秀	浜松21 (2級) 鈴木京太郎
浜松15 (初級) 伊藤 司	浜松14 (2級) 堀尾 成男
浜松14 (2級) 塚本 研一	浜松 6 (2級) 服部 司
浜松 1 (2級) 竹田 安彦	浜松 1 (2級) 岡本 淳

川 隊

○こ い 班

浜松 4 (2級) 杉本 敏浩	浜松 4 (2級) 山田 勝彦
浜松 7 (2級) 長内 明	浜松11 (2級) 平田慶一郎
浜松11 (2級) 小森 義明	浜松12 (2級) 大西 邦光
浜松24 (2級) 加藤 真治	細江 1 (2級) 藤田 仁孝

○信 濃 班

浜松 4 (2級) 溝口 純生	浜松 7 (2級) 伊藤 丈志
浜松 7 (2級) 野沢 純一	浜松11 (2級) 伊藤 保
浜松11 (2級) 小橋 元久	浜松12 (2級) 阿部 信悟
浜松19 (2級) 石原 洋	浜松24 (2級) 沢木 秀穂

○さわかに班

浜松 4 (2級) 村松 隆宏	浜松 7 (2級) 岡野 博史
浜松11 (2級) 森川 操	浜松11 (2級) 中村 守孝
浜松12 (2級) 吉富 明	浜松12 (2級) 松本将比古
浜松19 (2級) 玉田 克己	浜松24 (2級) 鈴木 真吾

○うなぎ班

浜松 4 (2級) 高倉 志鴨	浜松 7 (2級) 山田 貴志
浜松11 (2級) 松井 義一	浜松11 (2級) 依田 和也
浜松19 (2級) 幸田 稔	浜松24 (2級) 大石 佳正
細江 1 (2級) 中村 浩丈	

○あ ゆ 班

浜松 4 (2級) 柴田 勇樹	浜松 7 (2級) 森川 重則
浜松11 (2級) 児玉 昌芳	浜松12 (2級) 森下 直樹
浜松19 (2級) 小沢 由法	浜松24 (2級) 青野 公治
細江 1 (2級) 神谷 武布	細江 1 (2級) 石原 徹也

け も の 隊

○馬 班

浜松10 (2級) 那須田祐輔	浜松10 (2級) 鈴木 正明
浜松16 (2級) 加茂 正隆	浜松18 (初級) 松下 浩
浜松18 (初級) 中野 正	浜松20 (2級) 横原 幹容
可美 1 (2級) 薛 一矢	

○ハイエナ班

浜松10 (2級) 大畑 光弘	浜松18 (初級) 守屋 朝弘
浜松16 (2級) 本田 勝久	浜松18 (初級) 池田 豊
浜松18 (初級) 大石 哲郎	浜松20 (2級) 大園 剛志

○チーター班

浜松10 (2級) 刑部裕一郎	浜松16 (初級) 加藤 悟
浜松16 (2級) 三島 孝介	浜松18 (初級) 江川 英宏
浜松20 (1級) 紅林 克己	可美 1 (2級) 太田 典志

○狼 班

浜松10 (2級) 鈴木 雅文	浜松16 (2級) 鎗田 和彦
浜松18 (初級) 片山 秀敏	浜松18 (初級) 尾身 明
浜松20 (2級) 坂元 隆文	可美 1 (2級) 竹村 聡

○ジャガー班

浜松10 (2級) 白都 努	浜松16 (初級) 佐野 真人
浜松18 (初級) 村松 京市	浜松18 (初級) 仲秋喜代志
浜松20 (2級) 竹村 謙	可美 1 (2級) 富田 訓史

地区のうごき

- 1月11日 地区コミ会議 (法林寺)
 13日 県連新年会
 17日 中央小地区リーダー会 (法林寺)
 20日 地区新年会 (八幡閣)
 21日 浜松10団20周年 (篠原公民館)
 25日 組織拡張委員会 (法林寺)
 27~28日 南部小地区リーダー研修会
 2月4日 地区BSリーダー研修会 (東部公民館)
 4日 登録事務説明会 (法林寺)
 11日 地区CSリーダー研修会 (青少年の家)
 13日 地区コミ会議 (法林寺)
 18日 B-P祭
 19日 訓練チーム会議 (法林寺)
 21日 中央小地区リーダー会 (法林寺)
 22日 班長訓練野営BSリーダー会 (法林寺)
 23日 野営行事委員会 (法林寺)
 25日 登録事務受付 (法林寺)
 3月3日 班長訓練野営現地地下見
 5日 地区訓練チーム会議 (法林寺)
 10~11日 リーダー養成講座 (奥山半僧坊)
 13日 組織拡張委員会 (法林寺)
 14日 中央小地区リーダー会 (法林寺)

発 行 所

第75号

日本ボーイスカウト浜松地区事務所
 浜松市利町70-4 児童会館内
 編集発行責任者 山中 将 司
 印刷所 (株)朝日堂印刷所
 昭和54年4月25日 発行